

特定非営利活動法人 ふくおか環境カウンセラー協会 会報

第9号 '08.7.1
特定非営利活動法人
ふくおか環境カウンセラー協会
理事長：依田浩敏

昨年は、アル・ゴア前米副大統領の映画『不都合な真実』に始まり、IPCC の第4次評価報告書が順次発表され、両者がノーベル平和賞を受賞しました。この間、初めての国連・気候変動ハイレベル会議も開催され、12月は京都議定書以降の取り組みを決めるCOP13がインドネシアで開催されるなど、まさに「温暖化警告年」の様相を呈しました。そして、本年7月の洞爺湖サミットでも最大の課題は温暖化問題になるものと思われま

す。地球環境問題は、地域の環境問題と密接に関わっており、地域での環境に対する取り組みが求められています。会員の皆様は、既にそれぞれの所属する団体で精力的に活動されておられることと思います。当協会においても、事業を計画し、実施しております。ご協力のほどよろしくお願い致します。

依田浩敏



平成20年度通常総会

平成20年5月25日(日)14:15～16:30

1 会議次第

14:15 北森副理事長の司会のもとに、総会が開催された。

(1) 理事長挨拶

依田理事長挨拶

NPO 環境カウンセラー全国連合会が人材認定等事業の登録、「環境教育指導者認定」が認められたので、この制度を有効に利用したい。本協会としては、平成19年度は、認知度を高める多くの事業が行ったが、実施されなかった事業もあり、今年度以降多くの課題が残された。今年度は、収益に結びつく事業が計画されており、積極的に協会の活動を展開していきたい。

(2) 設立報告

武藤理事が、本日の理事会は会員総数34名のうち出席者26名（うち委任状：10名、表決権行使書1名）で定足数（2分の1以上の出席）を満たしているため成立することを報告した。

(3) 来賓挨拶

松本 善登氏（九州経済産業局 資源エネルギー環境部 エネルギー環境広報室 室長）

地球温暖化を含む地球環境問題について講演され、地球温暖化対策を国民に広めていく方法として、省エネ対策を国民が広く取り組めるように広報を行っているとの説明がなされた。

(4) 議長選任

林 宏氏を、議長に選んだ。

(5) 議長挨拶

議長挨拶後、新会員が自己紹介を行った。

(6) 議事録署名人選出

議事録署名人に依田理事長、武藤理事、中尾理事を、書記に北森副理事長を選任し、議案審議に入った。

2. 議案審議

1. 第1号議案 平成19年度事業報告に関する件

依田理事長 報告 別紙1に基づき報告を行い承認された。

平成19年度は、本協会の認知度を高める多くの事業が行われた。

(1) 総務関係

会務として、主な点は、以下のとおりである。

- ・後援事業は、複数の事業を行った。 ・平成19年度新規加入者は、4名であった。
- ・役員及び北九州支所変更を行った

(2) 環境学習・教育の支援

- ・講師の派遣は、1回であった。

(3) サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト「建花寺にホテルをよぼう」

- ・中尾理事が実施
- ・独立行政法人科学技術振興機構のプロジェクトに応募
- ・出前講座、河川清掃、水棲生物調査等を、中学生、大学等と実施する。

(4) 環境教育・環境学習指導者養成セミナー開催

- ・依田理事長が岡山で開催されたセミナーに出席

(5) 環境カウンセラー資格習得支援講座開催、社会検定試験受験対策講座開催

- ・講座の開催に至らず

(6) 環境省の「我が家の環境大臣事業」への参画

- ・実施していない

(7) ホームページの拡充

- ・充実の方向に

(8) 会報の発行

- ・年1回会報を発行（平成19年8月に第8号発行）

(9) 福岡県地球温暖化防止活動推進員の防止活動、組織運営に関する助言・指導及び防止技術の支援

- ・推進員アドバイザーに多くの会員が選ばれ、地域の活動に貢献している。
- ・福岡県地球温暖化防止活動推進員研修会の企画・立案

(10) 福岡地域子どもエコクラブ活動推進・支援

- ・子どもエコサイエンス教室開催(太宰府市 3回)
- ・「子どもエコクラブ全国フェスティバル in 北九州」(3月30日) 出展

(11) 環境省一村一品運動の支援

- ・パンフレットの作成・発行

(12) 北九州市ホテルデー市民自主企画出展

- ・平成19年6月2日～3日の2日間 参加者：約180名。開催場所：北九州市環境ミュージアム

2. 第2号議案 平成19年度収支決算報告に関する件 : 北森副理事長 報告

- ・原案通り、承認された。

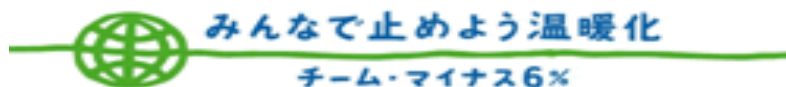
3. 第3号議案 平成19年度監査報告に関する件

- ・田中監事、日高監事が欠席のため代わりに、北森副理事長が、報告
- ・平成19年度決算について監査したところ、決算書の通り相違ないことを認めたと報告し承認された。

4. 第4議案 平成20年度事業計画案に関する件

依田理事長 報告 別紙3に基づき報告を行い承認された。

(1) 環境学習・教育の支援



- ・講師派遣を積極的に行いたい。
- (2) 環境教育・環境学習指導者養成セミナー開催
 - ・九州での養成セミナーの担当、全国連合会と協議しながら、企画・立案を行う。
- (3) 環境カウンセラー資格取得支援講座開催
 - ・一般の人を対象に、準備講習会を開催する。提出書類・論文・面接の指導を行う
- (4) 社会検定試験(eco 検定)受験対策講座開催
 - ・福岡商工会議所と12月の試験に向けて対策講座の開催を現在調整中
- (5) 環境省の「我が家の環境大臣事業」への参画
 - ・会員自らの応募、地域の家庭、団体への応募活動等を行う
- (6) ホームページの拡充
 - ・会員間の情報交換を充実する
 - ・協会の宣伝を積極的に行う
- (7) 会報の発行
 - ・会報 年2回 発行予定、100部印刷し、関係機関、県庁、県庁記者クラブ等に配布
 - ・会員は、原稿を積極的に投稿してほしい
- (8) 福岡県地球温暖化防止活動推進員の防止活動、組織運営に関する助言・指導及び防止技術の支援
 - ・研修会の企画、立案、活動推進アドバイザーとしての地域貢献、対策地域協議会の設立促進などに積極的にかかわりたい
- (9) 福岡地域子どもエコクラブ活動推進・支援
 - ・子どもエコサイエンス教室の開講 太宰府市と宮若市で計4回開催
- (10) 環境省 一村一品運動の支援
 - ・広報に向けてのパンフレット作成
- (11) 北九州市環境ミュージアム「未来ホテルデー」ブース出展
 - ・6月7日(土)・8日(日) 実施者：北九州支所会員
- (12) ふくおか Action Book 改訂版の作成
 - ・3年ごとの改正に伴い、内容の差し替えを行う
- (13) エコドライブステッカーの作成・配布

第5号議案 平成20年度収支予算案に関する件 : 北森副理事長 説明

- ・20年度予算は原案通り承認されたが、19年度予算欄は、第2号議案との整合性がなく、差し替えることで、了解された。

第6号議案 定款第2条の変更に関する件 : 武藤理事 説明

- ・審議の結果、5月25日付で「従たる事務所を福岡県福岡市及び福岡県北九州市に置く」に変更することについて原案どおり承認された。

3. 講演会

日時：5月25日 15:30～16:30 総会会場

講師：福岡大学 工学部 渡辺 亮一氏

演題：「福岡の水辺と水環境 ―樋井川周辺での活動を通じて―」

- ・樋井川を対象に、一斉環境調査、聞き取り調査、ごみ拾い、ごみの事態調査（ごみ類の分布、ごみの質量の分析）等を、学生を中心に幅広く進めていかれた状況を、いろいろな場面を示しながら、わかりやすく、講演を進められた。会員の今後の環境教育を行う折に、参考となる内容が、十分に得られたと思われる。また、福岡大学の最新人工芝のサッカー場の施工試験についても講演された。

・会員以外の参加者もあり、終了後、活発な質疑応答があり、有意義な講演となりました。

支所だより

【北九州支所】



平成20年3月30日（日）、北九州市で「こどもエコクラブ全国フェスティバル in 北九州」が実施され、来場者は12,800人に達し（目標約1万人）、大盛況裡に無事終了した。

このイベントには当協会も北九州支部が中心となり、地球温暖化防止活動推進センター（推進員）と共同で、地球温暖化防止の“環境クイズ”を出展した。

当初は約400人の参加を想定し、クイズ用紙・景品等を準備したが、午前中で無くなってしまい、急遽200人分を追加し対応した程、大好評であった。

今回はカウンセラー4名、推進員5名の参加を得て対処したが、休む暇も無い程であった。事前の打ち合わせも含め、どうもお疲れ様でした。

なお3月22日（土）には、環境ミュージアムで本年度最後の理事会が開催された。

北九州支部長 角谷 忠彦



活動報告

【子どもエコサイエンス教室（科学実験講座）】

昨年度に続いて今年度も夏休みに3回、「子どもゆめ基金」の助成を受けて太宰府市内の小中学生を対象に太宰府市中央公民館において「水とエネルギー」に関する科学実験教室を開きました。

環境問題を正しく理解するには科学的知識が必要です。まずは科学実験や科学工作を体験してもらうことによって科学や環境問題に関心を持ってもらうことを目的に開催しています。

参加者は子供たち37人と大人24人でした。活動プログラムは、第1回（8/5）水溶液の性質を知ろう、①水溶液の酸性度を知ろう（講師：中尾明子）、②水をきれいにしよう-ろ過と吸着（講師：

武藤博昭）、第2回（8/17）電気エネルギーを知ろう、①コイルモーターを作ろう（講師：高崎剛広、稲益崇）②電気を作ってみよう（講師：小谷茂明）、③エネルギーの変化を知ろう（講師：北森成治）、第3回（8/19）地球温暖化のしくみを知ろう、①発電機付風車を作ろう（講師：依田浩敏）、②二酸化炭素の性質を知ろう（講師：武藤博昭）等でした。

実験中の子供たちの目の輝きに感動しながら環境カウンセラー5名も楽しいひと時を過ご



しました。科学実験を体験することによって子供が少しでも環境問題に関心を持ってくれば幸いです。ご協力頂いた太宰市エコロなネットワーク、太宰府市環境課の皆様へ感謝します。

(武藤博昭)



森
さん
より
楽しい
報告

「ヨーロッパで感じたこと」 森 寿泰

昨年10月に生徒といっしょにローマ・パリ等を巡ることができたため、そこで思ったことを記してみたいと思います。

先づローマに到着したのが日曜日であったため、「本当に約200万人の人が生活しているのだろうか」と思うぐらい静まり帰っていたのである。行動していたりは観光客で、ローマ市民は休日中つくり家庭で過ごし、出勤がないとのこと。私たちが日本と云えば、イベントやショッピング、レジャーと駆回っている、環境に優しい生活とは、ローマの生活であることを痛感させられた。また、建物も中世のまのものが多く、道路においては古代からの石畳もある。その上を現代の車が走っているようなものである。我が国のように、毎年行われる道路工事や建物の建築工事が少ない国とは大きく異なる。

また、ローマおよびパリで紫外線測定を行なったが、日本上空だけが突出した値を示している。このことは10年以上前に、日本でフロンガスの放出を止めたせいではないだろうか。オゾン層のスプロール現象のようであり、直ぐにでも対策が必要である。このような事を考えると、環境問題と言うより、「人間の行動問題」と言った方がいいようである。

ヨーロッパ研修以来、スローライフを心掛けるようにしたこの頃である。

トピックス

五感で感じる河川の素顔

井芹 寧

1. 川の音



「さらさら」、「ちょろちょろ」、「ごうごう」などなど日本ほど、水の音をいろいろな言葉で表現している国はありません。それだけ昔から水と密接に関わり合い、水に親しんできた民族といえます。水の音は心の中にも染みついているようで、最近、自然の川の音が人の心を安定させることがわかってきています。

山間の源流部の河川や汚濁した都市部の河川を調査していくと、河川の水質と河川の音との関係にいくつかのパターンがあるような気がしてきました。川の浄化能力と川の音の関係をだすと面白いかもしれません。サーと流れていく単調な川よりも、いろいろな水音、また音のない流れが入り交じった川が浄化能力の高い本来の川かもしれません。よい音を持つ川ほど、鳥や獣、虫たちの多様な音が合わせて聞こえてきます。やはりそこには、子供の声や人の生活の音も調和しているのが理想だと思います。

2. 川の色

山水画は山と水（湖，川）で自然を表現したものです。この様に、河川水は自然の中で、景観として重要な位置づけにあります。

川の色は、概ね河川水質に結びついています。一般的に、透明であれば清浄で、出水で濁っていれば懸濁物が多いなど、だれでも視覚の情報で推測することができます。川の色は河川水そのものが色付いている場合と、川底や水面の反射による色付きがあります。それらの例を表-1に示します。

このうち、都市部の中小河川では白色、1級河川では黄緑色が問題となっています。白色は主として界面活性剤による発泡であり、都市部河川の堰の下で発泡し風で周辺部に飛散し苦情が出たり、水質浄化施設の曝気部で発泡し、問題となることがあります。最近四万十川を訪れましたが、中流部でわずかですが、発泡現象が観察されました。発泡するほどの濃度であれば、当然アユ等の魚類は忌避行動を起こすレベルです。

緑色は植物プランクトンの影響です。河川の場合、以前はどちらかというと黒色茶系の珪藻類の大量増殖による、上水道の閉塞障害が話題になることが多かったのですが、近年は富栄養化の進行により、河川でも黄緑色のアオコの問題が散見されるようになってきました。アオコにはミクロシスティンという、発ガンにかかわる物質が含まれていることが明らかになっており、トリハロメタン問題と同様、今後の最重要検討課題と考えられます。

3. 川の臭い，味

河川に関する苦情で、最も頻繁なのは悪臭問題です。浚渫で対応している例が多いのですが、汚濁源の対策がなかなかむずかしく、根本的な対策には至っていません。臭いの種類には、植物性臭，土臭・かび臭，魚貝臭，薬品性臭，金属性臭，腐敗性臭等があり、このうち、植物プランクトン，付着藻類及び放線菌が生産するかび臭が水道水に混入し、各地で問題となっています。



最近おいしい水と名をうって、湧水がペットボトルで販売され、ブームになっていきます。たしかに、湧出したての地下水は、カルシウムイオンなど各種の塩類が人体に取り込みやすい形態となっており、健康にいいと考えられます。しかし、我が国では、高温殺菌を行っているのがほとんどで、この処理を行うと、これらのイオン類の大部分は沈殿して不活性化します。また、容器のペットボトルから溶出する物質の影響も不明な部分があります。やはり、湧出地に出向き、気持ちもリフレッシュした状態で湧水を飲むのが、最も体にいいのではないのでしょうか。

4. 川の手触り

最近、湧水など良質な水は細かい構造（クラスターが小さい）で、悪い水（？）はねっとりしていると論じられたことがありました。真偽はさておいて、ここらへんは手触りではわかりません。実際は、水温や視覚・臭覚的な要素が基になって、手触りに影響しているようです。

流速も手触りの重要な要素です。さらさらと流れる沢水ほど手触りのいいものはありません。

水には軽い水、重い水があります。これも手に汲んで比べてわかるものではありません。専門的には軽水、重水と呼ばれるものです。標高の高い山の頂上で降る雨水は軽く、海岸付近で降る雨水は重くなります。この性質を利用して河川水の起源が推定できるようになり、化学分析ではわからなかったことが、明らかになることがあります。

中国に「河清」という言葉があります。これは、かせいと読み、常に濁っている黄河の水が清く澄むことからたとえて、望んでも実現しないことを表しています。日本にはこれに当てはまる言葉はありません。なぜなら、日本の河川は濁っても、直ぐ清くなっていたからです。しかし、近年、生活排水等の汚濁負荷により、「河清」を当てはめてもおかしくないようなイメージの河川が増えつつあるようです。私たちは日本古来の河川を取り戻すよう、望み、努力していかねばなりません。

（写真は編集長が勝手に挿入しました）

表-1 川の色

種 類	水面、河床の色	河川水の色
透 明	河川水は透明だからこそ、河床を透けて見えさせたり、空の色を反射したりしていろいろな表情を見せてくれます。昔は水を鏡として用いていました。当然濁ったり、色が付いていると利用できません。	無色透明という言葉は、本来、日本の大部分の河川水にそのまま当てはまるはずですが。熱帯から温帯の海外の主要河川では、土壌粒子などの懸濁物の混入、流下プランクトンの増殖により濁っています。
白	汚濁が進んだ河川で流れが緩やかな水域で、河床が白色のペールに包まれることが在ります。これは細胞内にイオウの粒を持ったベギアトアというバクテリアです。生活排水が流れ込む小河川では、洗剤に起因した泡が大量に発生することがあります。この場合水面は真っ白になります。一方、山間部の清浄な河川で水際の石礫に真っ白な硬い付着物が付き、ベルト状になっている事があります。これは付着藻類の珪藻類が乾燥したものです。	昔から白色は、上から白い水で泉と書くように、透明なきれいな水を示しています。しかし、近年の白色は、洗濯排水、米のとき汁など、生活排水の影響を受けた河川で見受けられます。また、イオウやアルミの懸濁物や陶土が混入した場合も白色になります。
緑 色 黄 緑 色	水面や河床に、浮葉、抽水、沈水性の水草が繁茂すると、水面がカーバーされたり、藻体が水を透してみえ、緑色にみえます。付着藻類で全体が緑色にみえることは少ないのですが、比較的清浄	黄緑色、緑色の色素のクロロフィルを含んだ植物プランクトンが大量に発生した場合着色します。緑藻が中心であれば緑、藍藻が中心であれば黄緑色系となります。

	な河川では、流水中ではカエトフォラ科、シオグサ科の仲間、川岸の止水部ではアオミドロの仲間が繁茂することがあります。	
赤	河床の湧水部が赤色になっているのを良く見かけます。これは、地中で酸素のない状態で鉄を溶かし込んだ地下水が顔を出し空気中の酸素で酸化され鉄の沈殿物を作ったためです。定常的に流れがあるところでは、どろどろした鉄バクテリアが繁茂がみられます。酸化した身にまっています。	淡水域でも海域と同じように、赤潮が発生します。これは植物プランクトンの大量発生によるものです。渦鞭毛藻によるものが主ですが、止水域ではミジンコ等の動物プランクトンやプランクトンの嚢胞が原因になることもあります。河川では上流に淡水赤潮の発生が見られる貯水池がある場合、その下流域で堰等により湛水域が生じた水域で観察されることがあります。沖縄では赤土の混入により赤色化が起き、海域への影響が懸念されています。
茶 色	比較的清浄な河川の瀬～トロ部では、河床の石礫に茶色の珪藻類や藍藻のピロウドラソウが大量に繁茂付着しそれが透けて、茶褐色～茶色にみえます。これらの付着藻類はアユの格好の餌となります。	温泉水や湿地帯で茶色の水が湧き出ていることがあります。これは、植物体起源の腐植酸（フミン酸等）を大量に含んだ水です。この水は一部の地域で飲用されていますが、決して塩素殺菌をしてはいけません、発ガンを誘発するトリハロメタンが出来上がってしまいます。
灰 色	水温の低い冬季など、河床に灰色の髪の毛（ミズワタ）状の付着物が大量に発生し、流下することがあります。これはその多くがスフェロテイルスというバクテリアです。有機物がやや多く酸素が補給される流水中で増殖します。流れが緩やかになり、酸素が少なくなると前述のベギアトアに取って代わられます。	
黒	汚濁が進んだ河川で、有機物の分解に伴い酸素が枯渇し、還元的状態が継続すると硫化水素が発生するようになります。硫化水素は直ぐ鉄イオン等の金属イオンと反応し、黒色の硫化物を作ります。これが、石礫に付着したり、懸濁物として流下します。また、マンガンも鉄と同じ仕組みで酸化され沈殿物になります。マンガンの酸化物は真っ黒です。	
黄金色	太陽、雲、水面の条件が合ったときに、河川や池の水面が黄金色に輝くことがあります。私は阿蘇の外輪山から1度しか経験していませんが、感動ものです。	

事務局だより

県 NPO ボランティアセンターに借りているロッカーの中にいろんな情報を入れています。持ち帰らずに、ご覧下さい。 武藤

◆会費納入のお願い

「ふくおか環境カウンセラー協会」は会員の皆様の会費で運営されています。また、全国連合会費も会員数に応じて支出しています。会費未納の方は至急納入してください。年会費 3,000 円 振込先：郵便貯金総合通帳「ぱるる」

記号 17410 番号：75552581 名前：福岡環境カウンセラー協会

◆準会員 並びに 賛助会員 募 集

準会員：会費（1口2千円） 賛助会員：会費（1口1万円） 学会会員：会費なし

◆ ホームページ <http://fukkan.sa-ba.jp/> の掲示板 及びメーリングリスト 活用下さい。

発行責任者： 依田 浩敏	編集責任者： 植木 康太
事務局：武藤 博昭 〒818-0110	太宰府市御笠 1-6-18
TEL/FAX 092-925-5344	http://fukkan.sa-ba.jp/